

The logo features the word "HIKVISION" in a bold, italicized, white sans-serif font, set against a red background that has a diagonal white stripe on the left side.

HIKVISION

iVMS-4200 Lite

ユーザーマニュアル

Legal Information

User Manual

©2018 Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd.

About this Manual

This Manual is subject to domestic and international copyright protection. Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd. ("Hikvision") reserves all rights to this manual. This manual cannot be reproduced, changed, translated, or distributed, partially or wholly, by any means, without the prior written permission of Hikvision.

Please use this user manual under the guidance of professionals.

Trademarks

HIKVISION and other Hikvision marks are the property of Hikvision and are registered trademarks or the subject of applications for the same by Hikvision and/or its affiliates. Other trademarks mentioned in this manual are the properties of their respective owners. No right of license is given to use such trademarks without express permission.

Disclaimer

TO THE MAXIMUM EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW, HIKVISION MAKES NO WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING WITHOUT LIMITATION THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, REGARDING THIS MANUAL. HIKVISION DOES NOT WARRANT, GUARANTEE, OR MAKE ANY REPRESENTATIONS REGARDING THE USE OF THE MANUAL, OR THE CORRECTNESS, ACCURACY, OR RELIABILITY OF INFORMATION CONTAINED HEREIN. YOUR USE OF THIS MANUAL AND ANY RELIANCE ON THIS MANUAL SHALL BE WHOLLY AT YOUR OWN RISK AND RESPONSIBILITY.

REGARDING TO THE PRODUCT WITH INTERNET ACCESS, THE USE OF PRODUCT SHALL BE WHOLLY AT YOUR OWN RISKS. HIKVISION SHALL NOT TAKE ANY RESPONSIBILITIES FOR ABNORMAL OPERATION, PRIVACY LEAKAGE OR OTHER DAMAGES RESULTING FROM CYBER ATTACK, HACKER ATTACK, VIRUS INSPECTION, OR OTHER INTERNET SECURITY RISKS; HOWEVER, HIKVISION WILL PROVIDE TIMELY TECHNICAL SUPPORT IF REQUIRED.

SURVEILLANCE LAWS VARY BY JURISDICTION. PLEASE CHECK ALL RELEVANT LAWS IN YOUR JURISDICTION BEFORE USING THIS PRODUCT IN ORDER TO ENSURE THAT YOUR USE CONFORMS THE APPLICABLE LAW. HIKVISION SHALL NOT BE LIABLE IN THE EVENT THAT THIS PRODUCT IS USED WITH ILLEGITIMATE PURPOSES.

IN THE EVENT OF ANY CONFLICTS BETWEEN THIS MANUAL AND THE APPLICABLE LAW, THE LATER PREVAILS.

Symbol Conventions

The symbols that may be found in this document are defined as follows.

Symbol	Description
 Danger	Indicates a hazardous situation which, if not avoided, will or could result in death or serious injury.
 Caution	Indicates a potentially hazardous situation which, if not avoided, could result in equipment damage, data loss, performance degradation, or unexpected results.
 Note	Provides additional information to emphasize or supplement important points of the main text.

Contents

Chapter 1	パスワードの作成とログイン	1
Chapter 2	デバイス管理	2
2.1	デバイスの追加	2
2.1.1	デバイスのアクティブ化	2
2.1.2	オンラインデバイスを追加	3
2.1.3	IPアドレスまたはドメイン名によるデバイス追加	7
2.1.4	P2Pクラウドによるデバイスの追加	9
2.1.5	複数のデバイスのインポート	11
2.	ネットワーク情報を編集する	13
2.3	パスワードの復元/リセット	14
2.3.1	パスワードのリセット	14
2.3.2	デフォルトパスワードを復元する	15
2.4	ファームウェアのアップグレード	16
2.5	制御アラーム出力	17
2.6	接続機器へのブロードキャスト	17
Chapter 3	P2P	18
3.1	P2Pアカウントを登録する	18
3.2	P2Pアカウントにログイン	19
Chapter 4	ライブビュー	21
4.1	ライブビューの開始と停止	21
4.1.1	カメラ1台のライブビュー	21
4.1.2	デフォルトビューモードを開始する	22
4.1.3	カスタムビューを追加する	23
4.1.4	カスタムビューモードでライブビューを起動する	24
4.1.5	ライブビューの停止	24
4.2	ライブビューの自動切り替え	25
4.2.1	デフォルトビューですべてのカメラの自動切り替え	25

4.2.2	カスタムビューの自動切り替え	26
4.2.3	デバイスの自動切り替えカメラ	26
4.3	PTZコントロール	27
4.3.1	プリセットの設定	27
4.3.2	パトロールの設定	28
4.3.3	パターンの設定	28
4.4	手動記録のキャプチャ設定	29
4.4.1	手動でビデオを録画する	29
4.4.2	ローカルビデオを見る	30
4.4.3	写真を撮る	31
4.4.4	撮影した写真を見る	31
4.5	インスタント再生	32
4.6	カスタムウィンドウの分割	32
4.7	その他の機能	33
Chapter 5	リモート再生	35
5.1	非同期再生	35
5.1.1	ビデオファイルの検索	36
5.1.2	ビデオファイルを再生する	37
5.2	同期再生	37
Chapter 6	ビデオファイルをダウンロードする	39
6.1	1台のカメラ用のダウンロード	39
6.2	複数カメラ用のダウンロード	39
Chapter 7	システム構成	41
7.1	一般パラメータ設定	41
7.2	ライブビューと再生パラメータを設定する	42
7.3	ファイル保存パスを設定する	43
7.4	ツールバー設定	43

第1章パスワードの作成とログイン

初めて使用する場合、クライアントはログイン用のパスワードを作成するように求めます。その後、パスワードを使用してクライアントソフトウェアにログインできます。

注意

- ソフトウェアはパスワードの強度を自動的に判断します。あなたのプライバシーのため、製品の安全性を高めるためにパスワード（大文字、小文字、数字、および特殊文字を含む最低8文字を使用）を変えることを強く勧めます。また、特にセキュリティの高いシステムでは、パスワードを定期的に再設定することをお勧めします。毎月または毎週パスワードを再設定すると、製品の保護に役立ちます。
 - すべてのパスワードおよびその他のセキュリティ設定を正しく設定することは、インストーラーおよび/またはエンドユーザーの責任です。
-

第2章 デバイス管理

デバイスの追加、編集、削除など、クライアント上のデバイスを管理できます。デバイスパスワードの復元やデバイスファームウェアバージョンのアップグレードなどの操作も実行できます。

2.1 デバイスの追加

クライアントを実行した後、ネットワークカメラ、ビデオエンコーダ、DVR、NVRなどを含むデバイスを、ライブビュー、再生などのリモート設定と管理のためにクライアントに追加する必要があります。

2.1.1 デバイスを有効にする

一部のデバイスでは、ソフトウェアを追加して正しく機能させる為に、アクティブにするためのパスワードを作成する必要があります。

デバイスをアクティブにする場合は、この作業を実行してください。

ステップ

注意

この機能はデバイスによってサポートされるべきです。

1. 右上隅にある  → デバイスをクリックしてデバイス管理ページに入ります。
2. オンラインデバイスをクリックしてウィンドウを開きます。
同じサブネット内のすべてのオンラインデバイスがリストに表示されます。
3. デバイスのステータス（[セキュリティ]列に表示）を確認して、[Inactive]デバイスを選択します。

IP	Device Type	Firmware Version	Security	Server Port	Device Serial No.	Start Time	Added
	DS-7608N-F1/W	V3.4.97build 180509	Active	8000		2004-01-29 22:40:56	No
	iDS-7732NX-K4/FA	V4.1.10build 180502	Inactive	8000		2018-05-25 15:41:14	Yes
	DS-2CD4112F-I	V5.4.5build 170228	Active	8000		2018-05-10 14:48:41	Yes
	iDS-96128NX-I24	V4.1.15build 180522	Active	8000		2018-05-25 09:29:02	No
	DS-8104LHFH-E2/RTJ	V2.2.0build 170117	Active	8000		2018-05-25 09:33:28	No
	DS-2CD3025D-IW2	V5.5.2build 180209	Active	8000		2018-05-09 23:36:39	No

Figure 2-1 オンラインデバイス

4. [アクティブ化]をクリックしてダイアログを開きます。
5. フィールドにパスワードと確認パスワードを入力します。

 **Caution**

The password strength of the device can be automatically checked. We highly recommend you change the password of your own choosing (using a minimum of 8 characters, including at least three kinds of following categories: upper case letters, lower case letters, numbers, and special characters) in order to increase the security of your product. And we recommend you reset your password regularly, especially in the high security system, resetting the password monthly or weekly can better protect your product.

Proper configuration of all passwords and other security settings is the responsibility of the installer and/or end-user.

6. オプション: デバイスがサポートしている場合は、デバイスをアクティブ化するときに Cloud P2Pサービスを有効にします。
 - 1) [クラウドP2Pを有効にする]をオンにして、[メモ]ダイアログを開きます。
 - 2) 確認コードを作成してください。
 - 3) 確認コードを確認してください。
 - 4) 要件を読むには、利用規約とプライバシーポリシーをクリックしてください。
 - 5) [OK]をクリックしてCloud P2Pサービスを有効にします。
7. OKをクリックしてください。
8. オプション: デバイスがサポートしている場合は、「セキュリティの質問を設定して今すぐGUIDファイルをエクスポートしますか?」とポップアップが表示されます。質問を設定するか、後でパスワードをリセットするためのGUIDファイルをエクスポートするには、[OK]をクリックします。

2.1.2 オンラインデバイスを追加

クライアントソフトウェアと同じローカルサブネットにあるアクティブなオンラインデバイスが[オンラインデバイス]ページに表示されます。オンラインデバイスの情報を更新するには、[60秒ごとに更新]をクリックします。

オンラインデバイスを追加する

ステップ

1. 右上隅にある  → デバイスをクリックしてデバイス管理ページに入ります。
2. Online Device をクリックしてオンラインデバイスウィンドウを開きます。
同じサブネット内のすべてのオンラインデバイスがリストに表示されます。
3. オンラインデバイスリストからオンラインデバイスを選択します。

 **注意**

アクティブデバイスの場合、デバイスを正しく追加する為にパスワードを作成する必要があります。 詳細な手順については、デバイスのアクティブ化を参照してください。

4. [追加]をクリックしてデバイス追加ウィンドウを開きます。
5. 必要な情報を入力してください。

アドレス

機器のIPアドレスを入力してください。 この追加モードでは、デバイスのIPアドレスが自動的に取得されます。

ポート

デフォルト値は8000です。

ユーザーネーム

デバイスのユーザー名をカスタマイズします。 通常、ユーザー名はadminです。

パスワード

デバイスのパスワードを入力してください。

 **Caution**

The password strength of the device can be automatically checked. We highly recommend you change the password of your own choosing (using a minimum of 8 characters, including at least three kinds of following categories: upper case letters, lower case letters, numbers, and special characters) in order to increase the security of your product. And we recommend you reset your password regularly, especially in the high security system, resetting the password monthly or weekly can better protect your product.

Proper configuration of all passwords and other security settings is the responsibility of the installer and/or end-user.

 **注意**

初めてオンラインデバイスを1つ追加するときは、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。 その後、デフォルトで以前のユーザー名とパスワードを使用してデバイスが追加されます。

6. [追加]をクリックしてデバイスを追加します。
7. オプション: デバイスを追加した後、必要に応じて以下の操作を実行します。

機器情報を変更する デバイスを選択して操作欄からをクリックすると、ニックネーム、IPアドレス/ドメイン名、ポート、ユーザー名、パスワードなどのデバイス情報を変更できます。

デバイス情報を更新する 機器を選択し、操作欄から  をクリックすると、選択した機器のリソース情報が更新されます。 リストに追加されたすべてのデバイスのリソース情報を更新するには、[Refresh All] をクリックします。

リモート設定を変更する デバイスを選択し、その操作欄から  をクリックしてさらにパラメータを設定します。

 **注意**

設定の詳細は、各機器の取扱説明書を参照してください。

デバイスの状態を見る デバイスを選択して操作列から  をクリックすると、録音ステータス、信号ステータス、ハードウェアステータスなどのデバイスステータスが表示されます。

チャンネル情報を変更する デバイスを選択し、 をクリックして選択したデバイスのチャンネルを展開します。 をクリックして[カメラの変更]ウィンドウを開きます。 カメラ名、ビデオストリーム、回転タイプなどのチャンネル情報を編集できます。

 **注意**

Cloud P2Pによって追加されたデバイスについては、チャンネル情報が異なります。詳細については、Cloud P2Pによるデバイスの追加を参照してください。

デバイスを削除 デバイスを選択して[削除]をクリックすると、そのデバイスがクライアントから削除されます。

複数のオンラインデバイスを追加する

SADPを介して検索されたオンラインデバイスが同じユーザー名とパスワードを持っている場合は、それらを一度にクライアントソフトウェアに追加できます。

クライアントソフトウェアに複数のオンラインデバイスを追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

ステップ

1. 右上隅にある  → デバイスをクリックしてデバイス管理ページに入ります。
2. Online Device をクリックしてオンラインデバイスウィンドウを開きます。

同じサブネット内のすべてのオンラインデバイスがリストに表示されます。

3. オンラインデバイスリストから複数のオンラインデバイスを選択します。

 **注意**

非アクティブデバイスの場合は、デバイスを正しく追加する前にそのパスワードを作成する必要があります。詳細な手順については、デバイスのアクティブ化を参照してください。

4. [追加]をクリックしてデバイス追加ウィンドウを開きます。
5. オプション：必要な情報を入力してください。

 **注意**

オンラインデバイスを追加するのが初めての場合は、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。それ以外の場合、選択されたデバイスはデフォルトで以前のユーザー名とパスワードを使用してクライアントに追加されます。

ユーザー名

デバイスのユーザー名をカスタマイズします。通常、ユーザー名はadminです。

パスワード

デバイスのパスワードを入力してください。

 **Caution**

The password strength of the device can be automatically checked. We highly recommend you change the password of your own choosing (using a minimum of 8 characters, including at least three kinds of following categories: upper case letters, lower case letters, numbers, and special characters) in order to increase the security of your product. And we recommend you reset your password regularly, especially in the high security system, resetting the password monthly or weekly can better protect your product.

Proper configuration of all passwords and other security settings is the responsibility of the installer and/or end-user.

6. [追加]をクリックしてデバイスを追加します。
7. オプション：デバイスを追加した後、必要に応じて以下の操作を実行してください。

機器情報を変更する デバイスを選択して操作欄からをクリックすると、ニックネーム、IPアドレス/ドメイン名、ポート、ユーザー名、パスワードなどのデバイス情報を変更できます。

デバイス情報を更新する 機器を選択し、操作欄からをクリックすると、選択した機器のリソース情報が更新されます。リストに追加されたすべてのデ

リモート設定を変更する

デバイスのリソース情報を更新するには、[Refresh All]をクリックします。

デバイスを選択し、その操作欄からをクリックしてさらにパラメータを設定します。

注意

設定の詳細は、各機器の取扱説明書を参照してください。

デバイスの状態を見る

デバイスを選択して操作列からをクリックすると、録音ステータス、信号ステータス、ハードウェアステータスなどのデバイスステータスが表示されます。

チャンネル情報を変更する

デバイスを選択し、をクリックして選択したデバイスのチャンネルを展開します。をクリックして[カメラの変更]ウィンドウを開きます。カメラ名、ビデオストリーム、回転タイプなどのチャンネル情報を編集できます。

注意

Cloud P2Pによって追加されたデバイスについては、チャンネル情報が異なります。詳細については、Cloud P2Pによるデバイスの追加を参照してください。

デバイスを削除

デバイスを選択して[削除]をクリックすると、そのデバイスがクライアントから削除されます。

2.1.3 IPアドレスまたはドメイン名でデバイスを追加する

IPアドレスまたはドメイン名でデバイスを追加できます。

IPアドレスまたはドメイン名でデバイスを追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

ステップ

1. 右上隅にある→デバイスをクリックしてデバイス管理ページに入ります。
2. 「追加」をクリックして「追加」ウィンドウを開きます。
3. 追加モードとしてIP / Domainを選択します。

4. ニックネーム、IPアドレス、ポート番号、ユーザー名、およびパスワードを含む必要な情報を入力してください。

アドレス

デバイスのIPアドレスまたはドメイン名を入力してください。

ポート

デバイスポート番号を入力します。デフォルト値は8000です。

ユーザーネーム

デバイスのユーザー名を入力してください。デフォルトでは、ユーザー名はadminです。

パスワード

デバイスのパスワードを入力してください。

Caution

The password strength of the device can be automatically checked. We highly recommend you change the password of your own choosing (using a minimum of 8 characters, including at least three kinds of following categories: upper case letters, lower case letters, numbers, and special characters) in order to increase the security of your product. And we recommend you reset your password regularly, especially in the high security system, resetting the password monthly or weekly can better protect your product.

Proper configuration of all passwords and other security settings is the responsibility of the installer and/or end-user.

5. クライアントソフトウェアにデバイスを追加します。
- [追加]をクリックしてデバイスを追加し、デバイスリストに戻ります。
 - [追加して続行]をクリックしてデバイスを追加し、次のデバイスを追加します。
6. オプション: デバイスを追加した後、必要に応じて以下の操作を実行します。

機器情報を変更する デバイスを選択して操作欄から  をクリックすると、ニックネーム、IPアドレス、ポート、ユーザー名、パスワードなどのデバイス情報を変更できます。

デバイス情報を更新する 機器を選択し、操作欄から  をクリックすると、選択した機器のリソース情報が更新されます。リストに追加されたすべてのデバイスのリソース情報を更新するには、[Refresh All]をクリックします。

リモート設定を変更する デバイスを選択し、その操作欄から  をクリックしてさらにパラメータを設定します。

注意

設定の詳細は、各機器の取扱説明書を参照してください。

デバイスの状態を見る

デバイスを選択して操作列から  をクリックすると、録音ステータス、信号ステータス、ハードウェアステータスなどのデバイスステータスが表示されます。

チャンネル情報を変更する

デバイスを選択し、 をクリックして選択したデバイスのチャンネルを展開します。 をクリックして[カメラの変更]ウィンドウを開きます。カメラ名、ビデオストリーム、回転タイプなどのチャンネル情報を編集できます。

 **注意**

Cloud P2Pによって追加されたデバイスについては、チャンネル情報が異なります。詳細については、Cloud P2Pによるデバイスの追加を参照してください。

デバイスを削除

デバイスを選択して[削除]をクリックすると、そのデバイスがクライアントから削除されます。

2.1.4 P2Pによるデバイスの追加

Cloud P2Pドメインを介してクライアントにデバイスを追加できます。

始める前に

最初にCloud P2Pアカウントにログインしてください。詳細については、クラウドP2Pアカウントへのログインを参照してください。Cloud P2Pドメインでデバイスを追加する必要があるときにこのタスクを実行してください。

ステップ

1. 右上隅にある  → デバイスをクリックしてデバイス管理ページに入ります。
2. 「追加」をクリックして「追加」ウィンドウを開きます。
3. 追加モードとしてCloud P2Pを選択します。
ログインしているCloud P2Pアカウントが表示されます。
4. デバイスのシリアル番号を入力するか、自動的に入手してください。
 - デバイスラベルに記載されているシリアル番号を入力します。
 - デバイスのIPアドレスがソフトウェアと同じローカルサブネットにある場合は、[オンラインデバイス]をクリックしてオンラインデバイスを選択すると、そのシリアル番号が自動的に取得されます。

5. デバイスをアクティブにしてCloud P2Pサービスを有効にしたときに作成された確認コードを入力します。
6. オプション：DDNSはDDNSによってデバイスにアクセスできるようにします。

デバイスドメイン名

Cloud P2Pサーバーに登録されているデバイスのIPアドレスとポートを取得するために使用されるデバイスドメイン名をカスタマイズします。

UPnPモード

自動

デバイスのポート番号を自動的に取得するには、UPnPモードとして[自動]を選択します。

マニュアル

UPnPモードとして手動を選択し、手動でデバイスのポート番号を入力する必要があります。

ユーザー名

デバイスのユーザー名を入力してください。デフォルトでは、ユーザー名はadminです。

パスワード

デバイスをアクティブにしたときに作成されるデバイスパスワードを入力します。

注意

DDNS機能が無効になっていると、デバイスのステータスの表示、リモート再生中のビデオファイルのダウンロードなど、クライアントを介して追加したデバイスに対していくつかの操作を実行できません。

7. クライアントソフトウェアとCloud P2Pアカウントにデバイスを追加します。
 - [追加]をクリックしてデバイスを追加し、デバイスリストに戻ります。
 - [追加して続行]をクリックしてデバイスを追加し、次のデバイスを追加します。
-

注意

クライアントがDDNSに3回接続できない場合、デバイスはP2Pによって追加されます。

8. オプション：チャンネル情報を変更します。
 - 1) デバイスを選択して  をクリックしてチャンネルを展開します。
 - 2)  をクリックして[カメラの変更]ウィンドウを開きます。
 - 3) 名前、回転タイプ、画質などのチャンネル情報を編集します。

回転タイプ

必要に応じて、カメラのライブビューまたは再生の回転タイプを選択します。

- 4) オプション: 設定したパラメータを他のカメラにコピーするには、[コピー先]をクリックします。
- 5) [OK]をクリックしてカメラを編集します。

2.1.5 デバイスをまとめてインポートする

定義済みのCSVファイルにデバイス情報を入力することで、デバイスをソフトウェアに一括して追加できます。

デバイスを一括してインポートするには、この作業を実行します。

ステップ

1. 右上隅  をクリックし、[デバイス]タブをクリックして[デバイス管理]ページに入ります。
2. 「追加」をクリックして「追加」ウィンドウを開きます。
3. 追加モードとして[一括インポート]を選択します。
4. [テンプレートのエクスポート]をクリックしてから、定義済みのテンプレート（CSVファイル）をPCに保存します。
5. エクスポートしたテンプレートファイルを開き、追加する機器に必要な情報を対応する欄に入力します。

モードを追加する

追加モードとして0を入力できます。これは、デバイスがIPアドレスまたはドメイン名で追加されることを示します。

アドレス

デバイスのIPアドレスまたはドメイン名を入力してください。

ポート

デバイスポート番号を入力します。デフォルト値は8000です。

ユーザーネーム

デバイスのユーザー名を入力してください。デフォルトでは、ユーザー名はadminです。

ユーザーネーム

デバイスのパスワードを入力してください。

 **Caution**

The password strength of the device can be automatically checked. We highly recommend you change the password of your own choosing (using a minimum of 8 characters, including at least three kinds of following categories: upper case letters, lower case letters, numbers, and special characters) in order to increase the security of your product. And we recommend you reset your password regularly, especially in the high security system, resetting the password monthly or weekly can better protect your product.

Proper configuration of all passwords and other security settings is the responsibility of the installer and/or end-user.

6. テンプレートファイルをクリックして  選択します。
7. [追加]をクリックしてデバイスをインポートします。
8. **Oオプション**: デバイスを追加した後、必要に応じて以下の操作を実行します。

機器情報を変更する

デバイスを選択して操作欄から  クリックすると、ニックネーム、IPアドレス/ドメイン名、ポート、ユーザー名、パスワードなどのデバイス情報を変更できます。

デバイス情報を更新する

機器を選択し、操作欄から  をクリックすると、選択した機器のリソース情報が更新されます。リストに追加されたすべてのデバイスのリソース情報を更新するには、[Refresh All]をクリックします。

リモート設定を変更する

デバイスを選択し、その操作欄から  をクリックしてさらにパラメータを設定します。

 **注意**

設定の詳細は、各機器の取扱説明書を参照してください。

デバイスの状態を見る

デバイスを選択して操作列から  クリックすると、録音ステータス、信号ステータス、ハードウェアステータスなどのデバイスステータスが表示されます。

チャンネル情報を変更する

Sデバイスを選択し、 をクリックして選択したデバイスのチャンネルを展開します。 クリックして[カメラの変更]ウィンドウを開きます。カメラ名、ビデオストリーム、回転タイプなどのチャンネル情報を編集できます。

 **注意**

Cloud P2Pによって追加されたデバイスについては、チャンネル情

報が異なります。詳細については、Cloud P2Pによるデバイスの追加を参照してください。

デバイスを削除

デバイスを選択して[削除]をクリックすると、そのデバイスがクライアントから削除されます。

2.2 機器のネットワーク情報を編集する

デバイスをアクティブにした後、オンラインデバイスのネットワーク情報を編集できます。始める前に

デバイスステータスが無効になっている場合は、デバイスを有効にしてください。アクティブ化されたオンラインデバイスのネットワーク情報を編集する場合は、このタスクを実行してください。

ステップ

1. 右上隅にある  → デバイスをクリックしてデバイス管理ページに入ります。
2. Online Device をクリックしてウィンドウを開きます。
3. オンラインデバイスリストでアクティブになっているデバイスを選択します。
4. Modify Netinfo をクリックして Modify Network Parameter を開きます。
5. デバイスのネットワークパラメータを変更します。
 - デバイスのIPアドレス、ポート、およびその他のネットワーク情報を自動的に取得するには、DHCPを確認します。
 - DHCPをオフにして、手動でIPv4 / IPv6パラメータを編集します。
6. デバイスをアクティブにしたときに作成したパスワードを入力してください。
7. [OK] をクリックしてネットワーク設定を完了します。

2.3 デバイスパスワードの復元/リセット

検出されたオンラインデバイスのパスワードを忘れた場合は、デバイスのデフォルトパスワードを復元するか、クライアントからデバイスのパスワードをリセットできます。

2.3.1 デバイスパスワードのリセット

検出されたオンラインデバイスのパスワードを忘れた場合は、クライアントからデバイスパスワードをリセットできます。

デバイスパスワードをリセットする場合は、この作業を実行してください。

ステップ

1. メニューバーで、 → [デバイス] をクリックして [デバイス管理] ページに入ります。
2. Online Device をクリックすると Online Device ウィンドウがポップアップします。
3. リストからデバイスを選択して [パスワードのリセット] をクリックします。
4. デバイスのパスワードを再設定してください。
 - [エクスポート] ボタン、パスワード、およびパスワードの確認フィールドが表示された場合は、[エクスポート] をクリックしてデバイスファイルを PC に保存してから、テクニカルサポートに送信してください。

注意

パスワードを再設定するための次の操作については、当社のテクニカルサポートにお問い合わせください。

- [エクスポート] ボタンと [生成] ボタン、パスワード、およびパスワードの確認入力欄が表示された場合は、[生成] をクリックして QR コード ウィンドウをポップアップし、[ダウンロード] をクリックして QR コードを PC に保存します。QR コードの写真を撮って携帯電話に保存することもできます。私達のテクニカルサポートに写真を送ってください。

注意

パスワードを再設定するための次の操作については、当社のテクニカルサポートにお問い合わせください。

- セーフモードを選択できるウィンドウが表示されたら、実際のニーズに応じてセーフモードを選択します。

 注意

パスワードを再設定するための次の操作については、当社のテクニカルサポートにお問い合わせください。

 Caution

The password strength of the device can be automatically checked. We highly recommend you change the password of your own choosing (using a minimum of 8 characters, including at least three kinds of following categories: upper case letters, lower case letters, numbers, and special characters) in order to increase the security of your product. And we recommend you reset your password regularly, especially in the high security system, resetting the password monthly or weekly can better protect your product.

Proper configuration of all passwords and other security settings is the responsibility of the installer and/or end-user.

2.3.2 デバイスのデフォルトパスワードを復元する

古いバージョンのデバイスの場合、又は検出されたオンラインデバイスのパスワードを忘れた場合は、クライアントを介してデバイスのデフォルトパスワードを復元できます。

デバイスのパスワードを古いバージョンのデバイスのデフォルトのパスワードに復元する場合は、この作業を実行してください。

ステップ

1. メニューバーで、 → [デバイス] をクリックして [デバイス管理] ページに入ります。
2. Online Device をクリックすると Online Device ウィンドウがポップアップします。
3. リストからデバイスを選択して [パスワードのリセット] をクリックします。
4. デバイスパスワードを復元します。
 - [セキュリティコード] フィールドが表示されたウィンドウが表示された場合は、セキュリティコードを入力してから、選択したデバイスのデフォルトパスワードを復元できます。

 注意

セキュリティコードを取得するには、当社のテクニカルサポートに連絡してください。

- [インポート] ボタンと [エクスポート] ボタンが表示されたウィンドウが表示された場合は、[エクスポート] をクリックしてデバイスファイルを PC に保存し、テクニカルサポートにファイルを送信してください。

注意

パスワードを再設定するための次の操作については、当社のテクニカルサポートにお問い合わせください。

What to do next

adminアカウントのデフォルトパスワード（12345）は、初回ログイン専用です。このデフォルトパスワードを変更して、他人による製品への不正アクセスなど、製品の正常な機能を妨げたり、その他の望ましくない結果を招いたりするなど、セキュリティ上のリスクに対する保護を強化する必要があります。

Caution

The password strength of the device can be automatically checked. We highly recommend you change the password of your own choosing (using a minimum of 8 characters, including at least three kinds of following categories: upper case letters, lower case letters, numbers, and special characters) in order to increase the security of your product. And we recommend you reset your password regularly, especially in the high security system, resetting the password monthly or weekly can better protect your product.

Proper configuration of all passwords and other security settings is the responsibility of the installer and/or end-user.

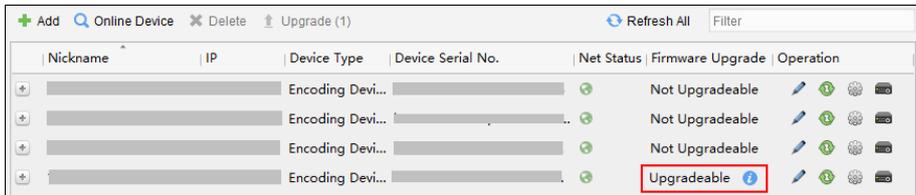
2.4 デバイスファームウェアバージョンのアップグレード

追加されたネットワークカメラの新しいファームウェアバージョンが利用可能な場合、クライアントからファームウェアバージョンをアップグレードできます。

追加したデバイスのファームウェアバージョンをアップグレードする必要がある場合は、この作業を実行してください。

ステップ

1. 右上隅にある  → デバイスをクリックしてデバイス管理ページに入ります。
2. 追加されたデバイスリストで、利用可能な新しいファームウェアバージョンがある場合、デバイスの[ファームウェアのアップグレード]列のステータスは[アップグレード可能]に変わります。



Nickname	IP	Device Type	Device Serial No.	Net Status	Firmware Upgrade	Operation
		Encoding Devi...		✓	Not Upgradeable	   
		Encoding Devi...		✓	Not Upgradeable	   
		Encoding Devi...		✓	Not Upgradeable	   
		Encoding Devi...		✓	Upgradeable	   

Figure 2-2 デバイスファームウェアバージョンのアップグレード

 注意

[ファームウェアのアップグレード]列のステータス一覧：ネットワーク切断、アップグレード可能（新しいファームウェアバージョンが利用可能）、アップグレード不可（ファームウェアバージョンが利用不可）、待機中（アップグレード待機）、アップグレード済み、およびアップグレード失敗。

3. オプション：カーソルを  に移動して、現行バージョン、最新バージョン、およびファームウェア・バージョンのアップグレード内容を表示します。
4. アップグレード可能なデバイスを選択し、[アップグレード]をクリックしてデバイスファームウェアのアップグレードを開始します。
アップグレードの進行状況が表示されます。アップグレードが完了すると、デバイスの[ファームウェアのアップグレード]列のステータスが[アップグレード済み]に変わります。

2.5 制御アラーム出力

アラーム出力は、ライト、バリアゲートなどの周辺機器に接続することができるデバイス上の出力である。デバイスは、接続された外部デバイスを制御するために信号を送信することができ、例えばライトをオンにし、バリアゲートを開く。接続された周辺機器は、イベントやアラームによって自動的に、またはクライアントによって手動で制御できます。ここでは、クライアントによってリモートでアラーム出力を制御するためのプロセスを紹介します。

メニューバーで、 → ツール → アラーム出力制御を選択し、ボタンをクリックしてアラーム出力を制御（有効または無効）します。

2.6 接続機器へのブロードキャスト

デバイスに音声出力がある場合は、ブロードキャスト機能を実行して追加したデバイスに音声コンテンツを配信します。

 注意

- PCには、デバイスに音声をブロードキャストするための利用可能なマイクが必要です。
 - クライアントがデバイスのカメラで双方向オーディオを実行している場合は、デバイスとのブロードキャストを開始できません。その逆も同様です。
 - Cloud P2Pデバイスは、DDNSを有効にしていればブロードキャストをサポートします。
-

メニューバーで、 → ツール → ブロードキャストを選択し、ブロードキャストするデバイスを選択してOKをクリックします。その後、マイクを通して選択したデバイスに音声をブロードキャストできます。

ブロードキャストを停止するには、 → ツール → ブロードキャストの順に選択し、ブロードキャストをキャンセルするデバイスの選択を解除して、OKをクリックします。

Chapter 3 P2P

クライアントソフトウェアは、Cloud P2Pアカウントの登録、Cloud P2Pアカウントへのログイン、およびCloud P2Pサービスをサポートするデバイスの追加もできます。

3.1 クラウドP2Pアカウントを登録する

クライアントソフトウェアは、クラウドP2Pサービスをサポートするデバイスを管理するためのクラウドP2Pアカウントの登録をサポートします。

クライアントソフトウェアを介してCloud P2Pアカウントを登録したい場合は、このタスクを実行してください。

ステップ

1. クラウドP2Pログインページに入ります。
 - 1) 右上隅にある  デバイスをクリックしてデバイス管理ページに入ります。
 - 2) 「追加」をクリックして「追加」ウィンドウを開きます。
 - 3) 追加モードとして[クラウドP2Pドメイン]を選択します。
 - 4) Cloud P2Pアカウントが登録されている地域を選択します。
 - 5) 「ログイン」をクリックして「ログイン」ページを開きます。

注意

右上隅の  アイコンをクリックしてログインページを開くこともできます。

2. [登録]をクリックして[アカウントの登録]ウィンドウを開きます。

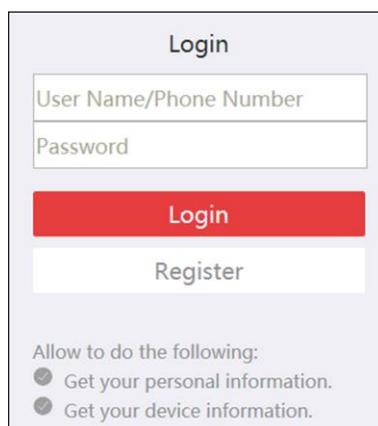


Figure 3-1 クラウドP2Pアカウントを登録する

 注意

WebブラウザはInternet Explorerバージョン9以降にする必要があります。

3. ユーザー名、パスワード、確認パスワード、電話番号/Eメールアドレスなど、必要な情報を入力します。
-

 Caution

The password strength of the device can be automatically checked. We highly recommend you change the password of your own choosing (using a minimum of 8 characters, including at least three kinds of following categories: upper case letters, lower case letters, numbers, and special characters) in order to increase the security of your product. And we recommend you reset your password regularly, especially in the high security system, resetting the password monthly or weekly can better protect your product.

Proper configuration of all passwords and other security settings is the responsibility of the installer and/or end-user.

4. 確認コードを取得するには、[メッセージを送信]をクリックします。
システムから電話またはemail.codeに確認コードが送信されます。
5. 受け取った確認コードを[確認コード]テキストフィールドに入力します。
6. 登録をクリックして登録を終了します。

3.2クラウドP2Pアカウントにログイン

クライアントソフトウェアからCloud P2Pアカウントにログインできます。

始める前に

Cloud P2Pアカウントを登録してください。

 注意

詳細については、クラウドP2Pアカウントを登録するを参照してください。

クライアントソフトウェアを介して登録済みのCloud P2Pアカウントにログインしたい場合は、このタスクを実行してください。

ステップ

1. クラウドP2Pログインページに入ります。
 - 1) 右上隅にある→デバイスをクリックしてデバイス管理ページに入ります。
 - 2) 「追加」をクリックして「追加」ウィンドウを開きます。
 - 3) 追加モードとして[クラウドP2Pドメイン]を選択します。
 - 4) Cloud P2Pアカウントが登録されている地域を選択します。
 - 5) 「ログイン」をクリックして「ログイン」ページを開きます。

 注意

右上隅のアイコン  をクリックしてログインページを開くこともできます。

2. ユーザー名/電話番号とパスワードを入力してください。
3. [ログイン]をクリックしてアカウントにログインします。
Cloud P2Pアカウントのデバイスがクライアントに追加されます。
4. オプション: 別のCloud P2Pアカウントにログインするには、[アカウントの切り替え]をクリックします。

Chapter 4 ライブビュー

監視タスクでは、メインビューページで追加されたネットワークカメラとビデオエンコーダのライブビデオを見ることができます。また、写真撮影、手動録画、PTZ制御などの基本的な操作もサポートされています。

次のアイコンは、カメラのさまざまな状態を示しています。

	カメラはオンラインで正常に動作しています。
	カメラはライブビューに正しく登録されています。
	The camera is in recording status.
	The camera is offline.

4.1 ライブビューの開始と停止

1台のカメラまたは1台のエンコーディングデバイスに接続されているすべてのカメラのライブビューを開始できます。ライブビューをデフォルトまたはカスタムビューモードで起動することもできます。

カメラのストリームが暗号化されている場合は、ライブビューを開始するためにカメラのストリームキーを入力する必要があります。

4.1.1 1台のカメラでライブビューを開始

1台のカメラのみのライブビューを開始できます。

1台のカメラのライブビューを開始したい場合は、このタスクを実行してください。

ステップ

1. メインビューページを開きます。
2. オプション: ライブビューのツールバー  をクリックして、ライブビューのウィンドウ分割モードを選択します。
3. オプション:  をクリックすると、ライブビューウィンドウの表示スケールを設定できます。フルスクリーン、4: 3、16: 9、または元の解像度として設定できます。

注意

システム設定でライブビューと再生ウィンドウの両方のビュースケールを設定することもできます。詳細はライブビューと再生パラメータの設定を参照してください。

4. 1台のカメラのライブビューを開始するには、次のいずれかの操作を行います。
 - カメラリストからディスプレイウィンドウにカメラをドラッグしてライブビューを開

始します。

- ディスプレイウィンドウを選択した後、カメラ名をダブルクリックしてライブビューを開始します。

注意

カメラのライブビューまたはビデオファイルが暗号化されている場合は、ストリームキーを入力する必要があります。

5. オプション: ライブビューのカメラのビデオを別のウィンドウにドラッグして、ライブビューの表示ウィンドウを変更します。
6. オプション: カメラリストのカメラ名を右クリックして、実際のニーズに応じてストリームの種類を切り替えます。

注意

[All Stream Types]をクリックして、右クリックメニューに表示するよく使用されるストリームタイプを選択できます。

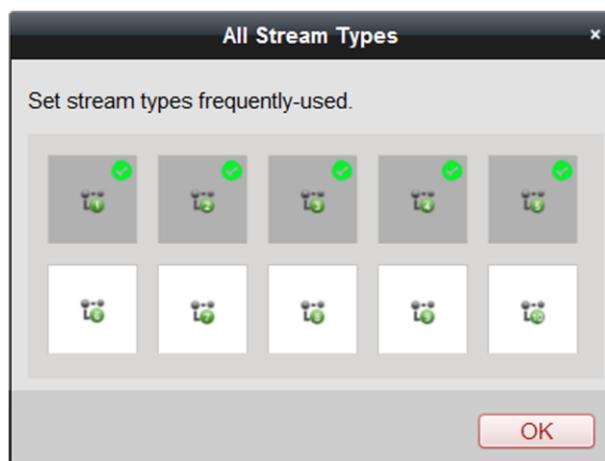


Figure 4-1よく使うストリームの種類を選択

4.1.2 デフォルトビューモードでライブビューを開始する

追加されたカメラのビデオは、さまざまな表示モードで表示できます。1ウィンドウ、4ウィンドウ、9ウィンドウ、16ウィンドウの4つのよく使用されるデフォルトの表示モードが選択可能です。

デフォルトの表示モードでライブビューを開始したい場合は、このタスクを実行してください。

ステップ

1. メインビューページを開きます。

2. 表示パネルのデフォルトの表示リスト  をクリックして展開します。
3. デフォルトの表示モードを選択します。
追加したカメラのビデオが、選択したビューに順番に表示されます。
4. オプション:  をクリックすると、ライブビューウィンドウの表示スケールを設定できます。フルスクリーン、4: 3、16: 9、または元の解像度として設定できます。

注意

システム設定でライブビューと再生ウィンドウの両方のビュースケールを設定することもできます。詳細はライブビューと再生パラメータの設定を参照してください。

5. オプション: デフォルトモードでライブビューを開始した後に、以下の操作を実行します。

インスタント再生 ビュー上にカーソルを移動して  をクリックすると、ビューのインスタント再生が開始されます。詳細については、インスタント再生を参照してください。

自動切り替え ビュー上にカーソルを移動して  をクリックすると、自動的にビューの切り替えが開始されます。詳細はライブビューの自動切り替えを参照してください。

4.1.3 カスタムビューを追加する

ライブビューの表示モードをカスタマイズできます。

ライブビューにカスタムビューを追加したい場合は、このタスクを実行してください。

ステップ

1. メインビューページを開きます。
2. ビューパネル  をクリックして新しいビューを作成します。
3. 必要に応じてビューの名前を入力してください。
4. [追加] をクリックしてビューを追加します。
5. オプション: ライブビューのツールバー  をクリックして、新しいビューのウィンドウ分割モードを設定します。

注意

デフォルトでは、新しいビューは4ウィンドウ分割です。

6. 新しい表示設定を保存するには、次のいずれかの操作を実行します。
 -  をクリックして直接ビューを保存します。
 -  をクリックして、ビューを別のカスタムビューとして保存します。

7. オプション: カスタムビューを追加した後に以下の操作を実行します。

ビュー名を編集 新しいビューの上にカーソルを移動して  をクリックし、ビュー名を編集します。

ビューを削除 新しいビューの上にカーソルを移動し、  をクリックしてビューを削除します。

4.1.4 カスタムビューモードでライブビューを起動する

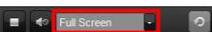
追加したカメラのビデオをカスタムビューモードで表示できます。

始める前に

表示モードをカスタマイズしてクライアントソフトウェアに追加します。 詳細については、カスタムビューを追加するを参照してください。

カスタムビューモードでライブビューを開始したい場合は、このタスクを実行してください。

ステップ

1. メインビューページを開きます。
2. オプション:  をクリックすると、ライブビューウィンドウの表示スケールを設定できます。 フルスクリーン、4: 3、16: 9、または元の解像度として設定できます。

注意

システム設定でライブビューと再生ウィンドウの両方のビュースケールを設定することもできます。 詳細はライブビューと再生パラメータの設定を参照してください。



3. ビューパネルのカスタムビューリストをクリックして展開します。
4. カスタムビューをクリックすると、このカスタムビュー内のカメラは事前に定義されたウィンドウ分割に従ってライブビューを開始します。
5. オプション: ビューの上にカーソルを移動して  をクリックすると、ビューの即時再生が開始されます。

4.1.5 ライブビューを停止

ライブビューを開始したら、必要に応じてそれを停止できます。

始める前に

ライブビューを始めます。

ライブビューを停止したいときにこのタスクを実行します。

ステップ

1. メインビューページでライブビュー表示ウィンドウを選択します。
2. ライブビューを停止するには、次のいずれかの操作を行います。
 - ディスプレイウィンドウ上にカーソルを移動し、右上隅に表示される  をクリックして、このディスプレイウィンドウのライブビューを停止します
 - 表示ウィンドウを右クリックして右クリックメニューを開き、メニューの[ライブビューの停止]をクリックしてライブビューを停止します。
 - ライブビューツールバー  をクリックして、すべてのライブビューを停止します。

4.2 ライブビューでの自動切り替え

ライブビューモジュールでカメラやビューを自動で切り替えることができます。

ライブビューで自動切り替えをするとき、3つのモードが利用可能です：

- デフォルトビューですべてのカメラを自動切り替え
- 機器のカメラの自動切り替え
- カスタムビューの自動切り替え

4.2.1 デフォルトビューですべてのカメラを自動切り替え

カメラリスト内のすべてのカメラのビデオは、選択したデフォルトビューで自動的に切り替わります。

デフォルトビューですべてのカメラを自動切り替えする必要がある場合は、このタスクを実行してください。

ステップ

1. メインビューページを開きます。
2. ツールバー  をクリックして、切り替え間隔を選択またはカスタマイズします。
3. デフォルトビューを選択して、選択したビュー  をクリックします。
カメラリスト内のすべてのカメラは、選択したデフォルトビューで自動切り替えを開始します。
4. オプション：デフォルトビューですべてのカメラの自動切り替えを開始した後、次の操作を実行します。

自動切り替えの
一時停止/再開

デフォルトビューですべてのカメラの自動切り替えを一時停止/再開するには、 /  をクリックします。

前/次のビデオを見る

 /  をクリックして、前後のカメラのライブビデオを表示します。

4.2.2 カスタムビューの自動切り替え

設定されたカスタムビューは一つずつ自動的に切り替えることができます。

カスタムビューを自動切り替えする必要があるときにこのタスクを実行します。

ステップ

1. メインビューページを開きます。
2. ツールバー  をクリックして切り替え間隔を選択します。
3. カスタムビュー  をクリックします。
設定されているすべてのカスタムビューが自動切り替えを開始します。
4. オプション: カスタムビューの自動切り替えを開始した後に次の操作を実行します。

自動切り替えの一時停止/再開  をクリックして、カスタムビューの自動切り替えを一時停止/再開します。

前の/次のビデオを見る  をクリックして、前後のカメラのライブビデオを表示します。

4.2.3 デバイスの自動切り替えカメラ

同じエンコードデバイス（NVRなど）に接続されているカメラのビデオストリームは、選択された表示ウィンドウで自動的に切り替えることができます。

デバイスのカメラを自動切り替えする必要がある場合は、この作業を実行してください。

ステップ

1. メインビューページを開きます。
2. 自動切り替えのための表示ウィンドウを選択してください。
3. ツールバーの  をクリックして切り替え間隔を選択またはカスタマイズします。
4. デバイスを選択して  をクリックします。
選択した機器のカメラがディスプレイウィンドウで自動切り替えを開始します。

注意

自動切り替えが開始されると、音声はデフォルトでオフになります。

5. オプション: グループ内のカメラの自動切り替えを開始した後に、次の操作を実行します。

自動切り替えの一時停止/再開  をクリックして、カスタムビューの自動切り替えを一時停止/再開します。

前の/次のビデオを見る  をクリックして、前後のカメラのライブビデオを表示します。

4.3 PTZコントロール

ソフトウェアは、パン/チルト/ズーム機能を備えたカメラ用のPTZ制御を提供します。PTZ制御中に、プリセット、パトロール、およびパターンを設定できます。

注意

クラウドP2Pデバイスは、上下左右方向へのPTZ移動のみをサポートします。

4.3.1 プリセット設定

プリセットは、パン、チルト、フォーカス、その他のパラメータの情報を含む定義済みの画像位置です。

PTZカメラ用のプリセットを追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

ステップ

1. メインビューページを開き、PTZカメラのライブビューを開始します。
2. PTZコントロールパネル  をクリックして展開します。
3. プリセットをクリックしてプリセット設定に入ります
4. PTZコントロールの方向ボタンと他のボタンをクリックして、カメラを目的のビューに移動します。
5. プリセットリストからPTZプリセット番号を選択し、 をクリックしてダイアログを開きます。
6. ダイアログにプリセットの名前を入力します。
7. OKをクリックしてください。
8. オプション: プリセットを設定した後、次の操作を実行します。

プリセットの呼び出し リスト内の設定済みプリセットをダブルクリックするか、プリセットを選択して  リックしてプリセットを呼び出します

プリセットを編集 リストから設定済みのプリセットを選択し、 クリックして編集します。
Cloud P2Pデバイスの場合、プリセット名のみ編集できます。

プリセットを削除 リストから設定済みのプリセットを選択し、 クリックして削除します。

4.3.2 パトロール設定

パトロールは、2つのプリセット間のスキャン速度とプリセットでの滞留時間を別々にプログラム可能です。ユーザー定義のプリセットのグループによって指定されます。

始める前に

1台のPTZカメラに複数のプリセットを追加します。

PTZカメラのパトロールを追加する必要があるときにこのタスクを実行してください。

ステップ

注意

Cloud P2Pデバイスの場合、パトロール機能はサポートされていません。

1. メインビューページを開き、PTZカメラのライブビューを開始します。
2. PTZコントロールパネル  をクリックして展開します。
3. パトロールをクリックしてPTZパトロール設定に入ります。
4. ドロップダウンリストからパス番号を選択します。
5.  クリックするとパトロール番号の追加ダイアログが開きます。
6. ダイアログでプリセットの滞留時間とパトロール速度を設定します。
7. OKをクリックしてください。
8. 他のプリセットをパトロールに追加するには、手順5、6、および7を繰り返します。
9. オプション: パトロールを設定した後に、次の操作を実行します。

パトロール呼び出し  をクリックして巡回を呼びます。
し

パトロールの停止  パトロールの呼び出しを中止するときにクリックします。

パトロールでプリセットを編集する  パトロールでプリセットを選択し、 クリックしてプリセットを編集します。

パトロールからプリセットを削除  パトロールパスでプリセットを選択し、 をクリックして巡回からプリセットを削除します。

4.3.3 パターンを設定

パターンは、記憶された一連のパン、チルト、ズーム、およびプリセット機能です。

PTZカメラ用のパターンを追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

ステップ

注意

Cloud P2Pデバイスの場合、パターン機能はサポートされていません。

1. メインビューページを開き、PTZカメラのライブビューを開始します。
2. PTZコントロールパネル  をクリックして展開します。
3. 「パターン」をクリックしてPTZパターン構成パネルを開きます。
4. このパターンパスの記録を開始するときに  をクリックします。
5. 方向ボタンを使用してPTZの動きを制御します。
6.  をクリックすると録音を停止し、録音したパターンを保存します。
7. オプション: パターンを設定した後に以下の操作を実行します。

コールパターン  をクリックしてパターンを呼び出します。

コールパターンを
停止  をクリックするとパターンの呼び出しを停止します。

パターンを削除 パターンを1つ選択して  をクリックすると、そのパターンが削除されます。

すべてのパターン
を削除  をクリックすると、すべてのパターンが削除されます。

4.4 手動で記録してキャプチャする

ライブビュー中に、ビデオを録画したり写真を手動でキャプチャしたりできます。その後、録画したビデオファイルとキャプチャした写真をローカルPCで表示できます。

4.4.1 手動でビデオを録画する

手動録画機能では、メインビューページでライブビデオを手動で録画したり、ローカルPCにビデオファイルを保存したりできます。

手動でビデオを録画する必要があるときにこのタスクを実行してください。

ステップ

注意

手動録画は、ライブビュー中のCloud P2Pデバイスではサポートされていません。

1. メインビューページを開きます。

2. ライブビューを開始する
3. 以下の操作のいずれかを実行して手動録画を開始してください。
 - ライブビューの表示ウィンドウにカーソルを移動してツールバーを表示し、ツールバー  をクリックします。
 - ディスプレイウィンドウを右クリックし、右クリックメニューの[録画開始]をクリックします。
アイコンが  から  に変わります。表示ウィンドウの右上隅に  インジケータが表示されます。
4.  をクリックすると手動録画が停止します。
録画されたビデオファイルは自動的にローカルPCに保存され、保存パス情報を示す小さなウィンドウがデスクトップの右下隅に表示されます。

注意

録画したビデオファイルの保存パスは、システム設定ページで設定できます。詳細については、ファイル保存パスの設定を参照してください。

4.4.2 ローカルビデオを見る

ライブビューおよび再生中に手動で記録され、ローカルPCに保存されているビデオファイルを表示できます。

ライブビューおよび再生中に記録されたビデオファイルを表示する必要があるときにこのタスクを実行します。

ステップ

1. 左上隅の  →[ファイル]→[ビデオファイルを開く]の順にクリックして、[ビデオファイル]ページを開きます。
2. カメラリストから検索するカメラを選択します。
3.  をクリックして、検索の開始時間と終了時間を指定します
4. 検索をクリック。
開始時間と終了時間の間に録画されたビデオファイルは、ページ上にサムネイル形式で表示されます。
5. オプション：検索後に以下の操作を実行する。

ビデオファイルを削除	ビデオファイルを選択し、[削除]をクリックしてビデオファイルを削除します。
ローカルビデオを保存	ビデオファイルを選択し、[名前を付けて保存]をクリックしてビデオファイルの新しいコピーを保存します。
再生	ビデオファイルをダブルクリックしてローカル再生を開始します。

4.4.3 写真を撮る

ライブビュー中に、静止画像を保存または共有したい場合は、ライブビデオの画像のクリックスナップショットを手動で取ることができます。

ライブビュー中に写真をキャプチャする必要があるときにこのタスクを実行してください。

ステップ

1. メインビューページを開き、カメラのライブビューを開始します。
2. 次のいずれかの操作をして写真を撮影してください。
 - ライブビューの表示ウィンドウにカーソルを移動してツールバーを表示し、ツールバーの  をクリックします。
 - 表示ウィンドウを右クリックして、右クリックメニューの[キャプチャ]をクリックします。

キャプチャされた写真は自動的にローカルPCに保存され、写真プレビューと保存パス情報を表示した小さなウィンドウがデスクトップの右下隅に表示されます。

注意

撮影した写真の保存先は、システム設定ページで設定できます。詳しくは、ファイル保存先の設定を参照してください。

4.4.4 撮影した写真を見る

ライブビューおよび再生でキャプチャされた写真は、ソフトウェアを実行しているPCに保存されます。必要に応じて撮影した写真を見ることができます。

ライブビューや再生中にキャプチャした写真を見る必要があるときにこのタスクを実行します。

ステップ

1. 右上隅にある  →ファイル→画像ファイルを開くの順にクリックして、キャプチャ画像ページを開きます。
2. カメラリストから検索するカメラを選択します。
3.  をクリックして、検索の開始時間と終了時間を指定します。
4. 検索をクリック。
開始時刻と終了時刻の間にキャプチャされた写真は、ページ上にサムネイル形式で表示されます。
5. オプション：検索後に以下の操作を実行します。

写真を拡大する 写真のサムネイルをダブルクリックすると、見やすくなります。

写真を印刷 キャプチャした画像を選択し、[印刷]をクリックして選択した画

像を印刷します。

画像を削除

キャプチャした写真を選択し、[削除]をクリックして選択した写真を削除します。

画像を保存する

キャプチャした画像を選択し、[名前を付けて保存]をクリックして選択した画像を保存します。

4.5 インスタント再生

インスタント再生では、ビデオの一部が目立つように見えたり、はっきりしないことがあります。メインビューページでビデオファイルを再生します。

始める前に

ビデオファイルを録画し、SD / SDHCカードやDVR、NVR、ネットワークカメラなどのHDDなどのストレージデバイスに保存します。

インスタント再生を開始する必要があるときにこのタスクを実行してください。

ステップ

1. メインビューページを開き、ライブビューを開始します。
2. 次の操作のいずれかを実行して、プレプレイデュレーションのインスタントプレイバックのリストを表示します。
 - 表示ウィンドウにカーソルを移動してツールバーを表示し、をクリックします。
 - 表示ウィンドウを右クリックして、右クリックメニューの[インスタント再生に切り替える]を選択します。
 - ビューパネルのデフォルトビューまたはカスタムビューノードにカーソルを移動してをクリック。
プレ再生時間が30秒、1分、3分、5分、8分、10分のリストが表示されます。
3. インスタント再生を開始するには、表示されたリストから期間を選択します。

例

3分を選択し、ライブビューの現在時刻が09:30:00の場合、インスタント再生は09:27:00から始まります。

インスタント再生中は、表示ウィンドウの右上隅にインジケータが表示されます。

4. オプション: もう一度クリックするとインスタント再生が停止し、ライブビューに戻ります。

4.6 ウィンドウ分割をカスタマイズする

クライアントソフトウェアは、複数種類の定義済みウィンドウ分割を提供します。必要に

応じてウィンドウ分割をカスタム設定することもできます。

ウィンドウ分割をカスタマイズする必要があるときにこのタスクを実行してください。

ステップ

注意

最大5つのウィンドウ分割をカスタマイズできます。

1. メインビューまたはリモート再生ページを開きます。
 2. ライブビューまたは再生ツールバー  をクリックします。
 3. [編集]を選択してカスタムウィンドウ分割ページを開きます。
 4. [追加]をクリックして[カスタムウィンドウ分割の追加]ダイアログを開きます。
 5. 必要に応じて新しいウィンドウ分割の名前を設定し、[OK]をクリックします。
 6. ウィンドウ分割を3×3、4×4、5×5、または6×6から選択します。
-

注意

リモート再生では、最大16ウィンドウまで同時に再生できます。そのため、16ウィンドウを超えるカスタムウィンドウ分割は無効です。

7. オプション: マウスをドラッグして隣接するウィンドウを選択し、「結合」をクリックしてウィンドウ全体として結合します。
8. 保存をクリックします

次はどうする？

 クリックすると、メインビューまたはリモート再生ページに戻ります。

4.7 その他の機能

補助画面プレビュー、デジタルズーム、チャンネルゼロ、双方向オーディオ、カメラステータス、同期など、ライブビューでサポートされている機能は他にもいくつかあります。

補助画面プレビュー

補助画面プレビュー  をクリックして選択し、補助画面を開いてライブ映像をさまざまな補助画面に表示して、複数の監視シーンを簡単にプレビューできます。

注意

最大3つの補助画面がサポートされています。

デジタルズーム

表示ウィンドウを右クリックしてOpen Digital Zoomを選択すると、カーソルが拡大鏡に変わ

ります。マウスをドラッグして、描画領域を拡大または縮小するには、右下/左上方向に長方形の領域を描画します。マウスホイールを使用して、デジタルズームモードでビューを拡大または縮小します。

チャンネルゼロ

デバイスのチャンネル0のライブビデオを表示しているときに、Ctrlキーを押しながらダブルクリックすると、特定のチャンネルが表示されます。Ctrlキーを押しながらもう一度ダブルクリックすると元に戻ります。

双方向音声

双方向音声機能により、カメラの音声通話が可能になります。カメラからライブビデオだけでなくリアルタイムオーディオも取得できます。デバイスに複数の双方向オーディオチャンネルがある場合は、双方向オーディオを開始するチャンネルを選択できます。表示されているウィンドウを右クリックして[双方向オーディオの開始]を選択すると、カメラと会話できます。

注意

- 双方向音声は、一度に1台のカメラでのみ使用できます。
- Cloud P2Pデバイスは、双方向オーディオ中のチャンネル選択をサポートしません。
- PCには、カメラまたはデバイスと通話するための利用可能なマイクが必要です。
- クライアントがデバイスにブロードキャストしている場合は、カメラとの双方向オーディオを開始できません。その逆も同様です。

カメラの状態

録画状態、信号状態、接続番号などのカメラの状態を検出して確認することができます。ステータス情報は10秒ごとに更新されます。表示ウィンドウを右クリックしてカメラステータスを選択するか、カメラツリーでカメラを右クリックしてカメラステータスを選択してカメラステータスウィンドウを表示します。

同期

同期機能は、クライアントソフトウェアを実行しているPCとデバイスクロックを同期させる方法を提供します。表示ウィンドウを右クリックして同期を選択するか、カメラツリーでカメラを右クリックして同期を選択して時刻を同期します。

カメラ名を変更する

カメラ名をカスタマイズする場合は、カメラツリーでカメラを右クリックして[カメラ名の変更]を選択します。

Chapter 5 リモート再生

ローカルデバイスまたはデバイスに設定されているストレージデバイスで保存されているビデオファイルを検索して、クライアントで再生することができます。

カメラのストリームが暗号化されている場合は、再生を開始するためにカメラのストリームキーを入力する必要があります。

5.1 非同期再生

カメラで録画されたビデオファイルを検索して再生し、それらを個別に再生することもできます。



Figure 5-1 再生ツールバー

再生ツールバーのアイコンの一部を紹介します。

アイコン	ネーム	説明
	シングルフレーム（反転）	ビデオファイルをフレームごとに（逆に）再生します。マウスホイールを下にスクロールして、ビデオファイルを1フレームずつ（逆に）再生することもできます。
	複数カメラのダウンロード	複数のカメラのビデオファイルを同時にダウンロードしてください。
	クリップとダウンロード	カメラのビデオファイルをダウンロードしてローカルPCに保存します。
	位置決め	ビデオファイルを再生する正確な時点を設定します。
	日付	ビデオファイルがある日は でマークされます。

 注意

Cloud P2Pデバイスは、逆再生、スローフォワード、および早送りの機能をサポートしていません。

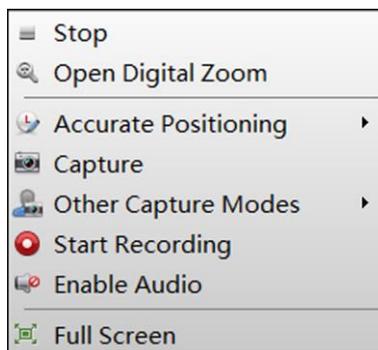


Figure 5-2再生表示ウィンドウの右クリックメニュー

アイコン	ネーム	説明
	その他の撮影モード	

キャプチャした画像を印刷する

写真をキャプチャして印刷します。

カスタムキャプチャ

現在の写真を撮影します。名前を編集してから保存することができます。

5.1.1 ビデオファイルの検索

期間を設定して、カメラで録画されたビデオファイルを検索できます。その期間中のビデオファイルは再生することができます。

再生のためにビデオファイルを検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

ステップ

1. リモート再生ページを開きます。
2. オプション:  クリックして、検索期間の開始日と終了日を設定します。

 **注意**

カレンダーでは、スケジュールに基づいてビデオファイルが記録されている日付が  マークされ、イベントに基づいてビデオファイルが記録されている日付が  マークされます。

3. 表示ウィンドウを選択し、カメラリストから再生するカメラを選択します。
 4. 検索をクリック。
 5. カメラの再生を開始して、選択したカメラのビデオファイルを検索します。再生を開始するには、次のいずれかを実行します。
-

 **注意**

- デバイスノードを表示ウィンドウにドラッグして、デバイスのカメラの再生を開始することもできます。
 - 最大16台のカメラを同時に検索できます。
-

クライアントは、一致したビデオファイルを時系列で自動的に再生します。

5.1.2 ビデオファイルを再生する

ビデオファイルで再生を検索した後は、タイムラインを介してビデオを再生できます。

ビデオファイルを再生する必要がある場合は、この作業を実行してください。

ステップ

1. リモート再生ページを開きます。
 2. カメラを選択し、録画したビデオファイルを検索する期間を設定します。
 3. 検索をクリックします。
 4. タイムラインをクリックして、通常の再生に必要な指定時間のビデオセグメントを配置します。
-

 **注意**

- タイムラインはビデオファイルの再生時間を示し、種類の異なるビデオファイルは色分けされています。
 - マウスホイールまたは  /  を使用して、タイムラインバーを拡大または縮小できます。
-

5.2 同期再生

同期再生中は、最大16台のカメラから同時に録画映像を見ることができます。カメラに特定の時点でビデオ映像がない場合、再生は停止し、ビデオ映像が録画されるまで他のカメ

ラがビデオ映像を再生するのを待ちます。たとえば、午前8時にカメラA、B、およびCで撮影されたビデオ映像を表示する場合は、各カメラからのビデオ映像を個別に調べる代わりに同期再生を使用できます。カメラAに午前8:00から午前8:05の間にビデオ映像がない場合、その再生は一時停止され、他のカメラ（BとC）は正常になります。午前8時になると、カメラAもビデオ映像の再生を開始します。

ビデオファイルを同期して再生する必要がある場合は、このタスクを実行してください。

ステップ



最大16台のカメラのビデオファイルを同時に再生できます。

1. リモート再生ページを開きます。
2. 2台以上のカメラを選択して、検索期間を設定します。
3. 検索をクリックします。
4. 同期再生を開始します。
 - クライアントを実行した後の再生モードは、デフォルトでは同期再生です。
 - 非同期再生モードの場合は、ツールバーの  をクリックして同期再生を有効にします。

Chapter 6 ビデオファイルのダウンロード

再生中に、1つまたは複数のカメラのビデオファイルをクリップしてローカルPCにダウンロードする開始時間と終了時間を設定できます。

注意

クラウドP2Pデバイスのビデオファイルをダウンロードすることはできません。

6.1 1台のカメラのダウンロード

再生中に開始時間と終了時間を設定してビデオ映像をクリップすることができます。クリップした後、ビデオ映像はローカルPCにダウンロードされます。

1台のカメラ用に録画されたビデオファイルをダウンロードしてPCに保存するには、このタスクを実行します。

ステップ

注意

デフォルトの保存パスを設定するには、ファイル保存パスの設定を参照してください。

1. リモート再生ページに入り、カメラを選択して再生を開始します。
2. カメラの表示ウィンドウを選択して、再生ツールバーの  クリックします。
3. 開始時刻と終了時刻を設定してください。 開始時間と終了時間中のビデオ映像はクリップされ、クライアントを実行しているPCのデフォルトのファイル保存パスに保存されます。
4. ダウンロードタスクの名前を設定してください。
5. オプション: [ダウンロードプレーヤー]をオンにして、ビデオフッターのあるビデオプレーヤーをダウンロードします。 提供されたプレーヤーでビデオを再生できます。
6. [OK]をクリックしてダウンロードを開始します。
アイコンは、クライアントメニューバーの右上隅に表示されます。

6.2 複数カメラのダウンロード

複数のカメラの再生中に、日付ごとに複数のカメラのビデオファイルを同時にダウンロードできます。

複数のカメラのビデオファイルを日付で同時にダウンロードするには、次の手順を実行します。

ステップ

1. 再生ページに入り、複数のカメラを選択して再生を開始します。
-



再生の開始については、リモート再生を参照してください。

2.  クリックして複数カメラのダウンロードページを開きます。
 3. カメラにチェックして、対応するビデオデュレーション設定を有効にします。
 4. 各カメラのビデオの開始時間と終了時間を設定します。
 5. オプション: プレーヤーをダウンロードするには、プレーヤーのダウンロードをチェックします。
 6. [ダウンロード]をクリックして、設定した期間のビデオファイルをローカルPCへダウンロードします。
進行状況バーにダウンロードプロセスが表示されます。
 7. オプション: 手動ダウンロードを停止するには、「停止」をクリックします。
-



最大16台のカメラのビデオファイルを同時にダウンロードできます。

Chapter 7 システム構成

ネットワークパフォーマンス、画像フォーマット、ビデオや画像の保存先パス、ライブビューのアイコン、再生ツールバーの設定など、クライアントソフトウェアの設定を構成します。

7.1 一般パラメータの設定

ネットワークパフォーマンス、時間同期など、よく使用されるパラメータを設定できます。上記のパラメータを設定する必要がある場合は、次の作業を実行してください。

ステップ

1. 右上隅  をクリックし、[システム] タブをクリックして [システム構成] ページに入ります。
2. 一般パラメータを設定します。

ネットワークパフォーマンス

ネットワーク状態を [通常]、[良い]、または [最高] に設定します。

最大モード

最大モードとして最大化または全画面表示を選択します。最大化モードでは、表示を最大化してタスクバーの表示ができます。全画面モードでは、クライアントを全画面モードで表示できます。

自動ログインを有効にする

クライアントソフトウェアに自動的にログインします。

デフォルトのパスワードを使用しているときにセキュリティプロンプトを表示する

追加したデバイスのデフォルトのパスワードが変更されていない場合は、通知を求めるプロンプトが表示されます。

自動時刻同期

指定された時点で、追加されたデバイスの時刻と PC がクライアントを実行している時刻を自動的に同期させます。

デバイスの最新ファームウェアバージョンを自動的に検出

クライアントは追加されたデバイスの最新のファームウェアバージョンを自動的に検出できます。新しいファームウェアバージョンが利用可能になると、アップグレードを促すメッセージが表示されます。

サーバーポートのアップグレード

アップグレードサーバを実行している PC のポート番号。 1 から 65535 の間であります。

デフォルトでは15200です。

3. 保存をクリックします。

7.2 ライブビューと再生パラメータの設定

画像フォーマット、再生前期間など、ライブビューと再生のパラメータを設定できます。

ライブビューと再生のパラメータを設定する必要がある場合は、次の作業を実行してください。

ステップ

1. 右上隅  をクリックし、[システム]タブをクリックして[システム構成]ページに入ります。
2. ナビゲーションの[ライブビューと再生]をクリックします。
3. ライブビューと再生パラメータを設定します。

画像フォーマット

ライブビューおよび再生中にキャプチャしたキャプチャ画像の形式を設定します。

ダウンロードしたビデオファイルを結合する

日付でビデオファイルをダウンロードするための結合されたビデオファイルの最大サイズを設定します。

スケールを見る

ライブビューまたは再生中のビデオの表示スケール。 フルスクリーン、4: 3、16: 9、または元の解像度として設定できます。

注意

ライブビューモジュールで表示スケールを設定することもできます。詳細はライブビューを参照してください。

レイパフォーマンス

ライブビデオの再生パフォーマンス。

最短遅延、バランス、またはなめらかに設定できます。

スクリーンツールバー表示を有効にする

ライブビューまたはプレイバックで各表示ウィンドウにツールバーを表示します。

再起動後に最新のライブビューステータスを再開

クライアントに再度ログインした後で、最新のライブビューステータスを再開します。

シングルライブビューでバックグラウンドビデオを切断する

複数ウィンドウ分割モードでは、ライブビデオをダブルクリックして1ウィンドウ分割モードで表示すると、他のライブビデオはリソースを節約するために停止します。

ズーム用ホイールを有効にする

PTZモードでビデオをズームインまたはズームアウトする、またはデジタルズームモードでビデオをズームインまたは戻す場合には、マウスホイールを使用します。このようにして、マウスをスクロールしてライブビデオを直接ズームインまたはズームアウト（または戻す）することができます。

ストリームタイプの自動変更

ディスプレイウィンドウのサイズに応じて、ライブビューでビデオストリーム（メインストリームまたはサブストリーム）を自動的に変更します。

注意

ウィンドウ分割が9より大きい場合、自動的にサブストリームに切り替わります。

ハードウェアデコードの推奨

ライブビューおよび再生用にハードウェアによるデコードを有効にするように設定します。ハードウェアデコードは、ライブビューまたは再生中にHDビデオを再生するときに、より良いデコードパフォーマンスと低いCPU使用率を提供できます。

ハイライトを有効にする

ライブビューと再生で、検出されたオブジェクトを緑色の長方形でマークします。

4. 保存をクリックします。

7.3 ファイル保存パスを設定する

手動録画のビデオファイル、キャプチャした写真、およびシステム設定ファイルは、ローカルPCに保存されます。これらのファイルの保存パスを設定できます。

ファイル保存パスを設定する必要がある場合は、次の作業を実行してください。

ステップ

1. 「システム」をクリックして選択し、「システム構成」ページに入ります。
2. マウスをスクロールするか、右側の[ファイル]をクリックしてファイルの内容を見つけてみます。
3. ファイルのローカルパスをクリックして選択します。
4. 下部にある[保存]をクリックします。

7.4 ツールバーに表示されるアイコンを設定

ライブビューおよび再生ウィンドウのツールバー上のアイコンと順序はカスタマイズできます。どのアイコンを表示するかを選択したり、アイコンの順序を設定したりできます。

ツールバーに表示されるアイコンを設定する必要がある場合は、次の作業を実行してください。

ステップ

1.  「システム」をクリックして選択し、「システム構成」ページに入ります。
2. マウスをスクロールするか、右側のツールバーをクリックしてツールバーの内容を見つけます。
3. ツールバーに表示するアイコンをクリックして選択します。選択されたアイコンは  でマークされます。
4. オプション: アイコンをドラッグしてツールバー上のアイコンの順序を設定します。

Table 7-1 ライブビューツールバーのアイコン

	ライブビューを停止	ディスプレイウィンドウでライブビューを停止します。
	キャプチャ	ライブビュープロセスで写真をキャプチャします。キャプチャ画像はPCに保存されます。
	録画	手動録画を開始します。ビデオファイルはPCに保存されます。
	PTZコントロール	スピードドーム用にPTZモードを開始します。ビューをクリックしてドラッグし、PTZコントロールを実行します。
	双方向音声	デバイスをライブビューにして双方向オーディオを開始します。
	デジタルズーム	デジタルズーム機能を有効にします。もう一度クリックすると、機能が無効になります。
	インスタント再生	インスタント再生モードに切り替えます。
	リモート設定	ライブビューでカメラのリモート設定ページを開きます。

Table 7-2 再生ツールバーのアイコン

	キャプチャ	写真をキャプチャします。キャプチャ画像はPCに保存されます。
	録画	ビデオを切り取り、切り取ったビデオをPCに保存します。
	デジタルズーム	デジタルズーム機能を有効にします。もう一度クリックすると、機能が無効になります。
	ダウンロード	カメラのビデオファイルをダウンロードすると、ビ

		デオフィールはPCに保存されます。
--	--	-------------------

5. 下部にある[保存]をクリックします。



See Far, Go Further